

学院短大、就職率100%を達成

厳しい競争勝ち抜き 学院大は93%を確保

金沢学院大と学院短大の平成十四年度卒業生の就職状況は、五月九日現在で学院短大は一〇〇%（前年九五%）を達成、学院大は九三%（前年八八%）と、厳しい就職戦線が続く中で、前年実績を上回りました。

学院短大は百四十八人の卒業生のうち、百十一人が就職を希望していましたが、石川労働局とハローワークがまとめた今年三月末の石川県内新規学校卒業者の就職決定状況によると、大学など（大学・短

大・高専・専修）卒業者の就職決定率は八九・八%でした。このうち短大は八五・五%と一九八四年の統計開始以来、過去最低を記録してしまいました。この三月末時点でも、学院短大の就職決定率は九五・四%と平均水準を大きく超えています。

またが、最終的には、学生の努力と教職員の支援が奏功して、就職率一〇〇%を達成したものです。学院大は四百七十四人の卒業生のうち、三百三十三人が就職を希望、現在までに三百九人の就職が決定しています。

地域に感謝のゴミ拾い

金沢東高 クリーンアップ末町



総合学習の一環で、生徒は三、四人の班に分かれて道路沿いに落ちているたばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルなどを分別しながら回収しました。生徒らは予想以上のごみの多さに驚き、担当教諭は「地域や住民への感謝の気持ちを持続してほしい」と話していました。

金沢東高の「クリーンアップ末町」は五月七日、学校のある金沢市末町一帯で行われ、三年生約百三十人が地域への感謝の気持ちを込めながらごみを拾い集めました。写真。

活動には金沢市末浄水場の職員も参加しました。

フレッシュマンキャンプ

1年生の夢ふくらむ

学院大3学部で始まる



室生犀星記念館を見学する文学部の参加者

金沢学院大の新入学生を対象にした平成十五年度「フレッシュマンキャンプ」は、五月八、九日の文学部を皮切りにスタート

しました。文学部の「フレッシュマンキャンプ」には、日本文学の六十五人、国際文化学科の三十八人の合計百三人が参加しました。日本文学科の六十五人は二班に分かれて、それぞれ室生

日の日程で上級生から大學生活や留學生生活などの話しを聞き、教職員から就職関係や資格の取り方など有意義な説明を受けました。

この後五月中には美術文化学部の三学科が行い、

犀星記念館、泉鏡花記念館とその周辺の小文学散歩を楽しんだ後、尾口村にある本学園の研修施設・白山麓研修センターに入り、一部国際文化学科と合同で一泊二

六月には経営情報学部の三学科が行う予定です。

学院大・金沢東高トランポリン 最優秀7人・優秀9人

協彰 県表 最優秀選手賞は全国大会最優秀選手賞・優秀選手表彰式は五月十日、金沢市内のホテルで行われ、最優秀選手賞にトランポリンで金沢学院大から六選手、金沢東高から一選手、計七選手、優秀選手賞に同じくトランポリンで金沢学院大から二選手、金沢東高から七選手、計九選手の栄光、健闘がたたえられました。

金沢学院短大の相良多喜子教授はこのほど、十五年度公衆衛生功労者栄養士知事表彰を受けました。栄養改善の普及と栄養士の育成に努められ、県民の健康増進に寄与した功績が認められたものです。

発行・入試広報部